

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th



市制100周年・全国都市緑化かわさきフェア

川崎市における 地域包括ケアシステム構築に向けた取組

～多様な主体の連携による
「すべての地域住民」のためのシステムづくり～

川崎市長 福田 紀彦



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



©KAWASAKI FRONTALE



多摩川スカイブリッジ



**CARBON
ZERO
CHALLENGE**

脱炭素戦略 かわさきカーボンゼロチャレンジ2050

KAWASAKI CITY

かわさきカーボンゼロチャレンジ2050

1. 川崎市の特徴

■ 位置・地勢



■ 市内の主な特徴



武蔵小杉エリアの高層マンション

2020年に、男女ともに平均寿命日本一



全国的に人口減少が進む中、人口が増加している



健康ウォーキングの様子

他区に比べて、外国人人口が多い

川崎区	国籍別人口順位	人口
1	中国	6,852人
2	ベトナム	2,830人
3	韓国	2,786人

川崎市の特徴

「大都市データランキング カワサキをカイセキ！」から

20政令市と東京都区部から構成される21大都市間比較

・人口密度	10,675人/km ²	※東京都区部及び大阪市に次ぐ過密都市	
・人口増加比率	0.11%	➤ 6位	} 元気な都市
・出生率	0.75%	➤ 3位	
・自然増加比率	▲0.14%	➤ 2位	
・死亡率	0.89%	➤ 最低位	
・平均年齢	43.7歳	➤ 最低位	} 若い都市
・生産年齢人口割合	67.1%	➤ 2位	
・老年人口割合	20.2%	➤ 最低位	
・刑法犯認知件数	3.8/1,000人	➤ 19位	} 安全な都市
・交通事故発生件数	172.3/10万人	➤ 18位	

● ボランティア団体が活発に活動

「プロボノ」企画打合せの様子



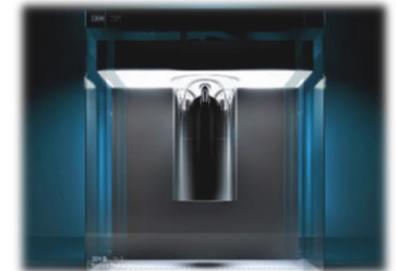
● 高い技術力を持つ産業・研究機関など

ライフサイエンス・環境分野のイノベーション拠点
「キングスカイフロント」(川崎区殿町)



CCBY4.0 by 川崎市

アジア初の量子コンピューターの
設置・稼働 (R3~)



IBM Quantum System One 「Kawasaki」
出典：日本IBM

2. 地域包括ケアシステムの構築に向けて

●本市の特徴

- 若い都市、ボランティア団体や産業・研究機関など社会資源が豊富、コンパクトな都市

●川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンの策定（H27.3）

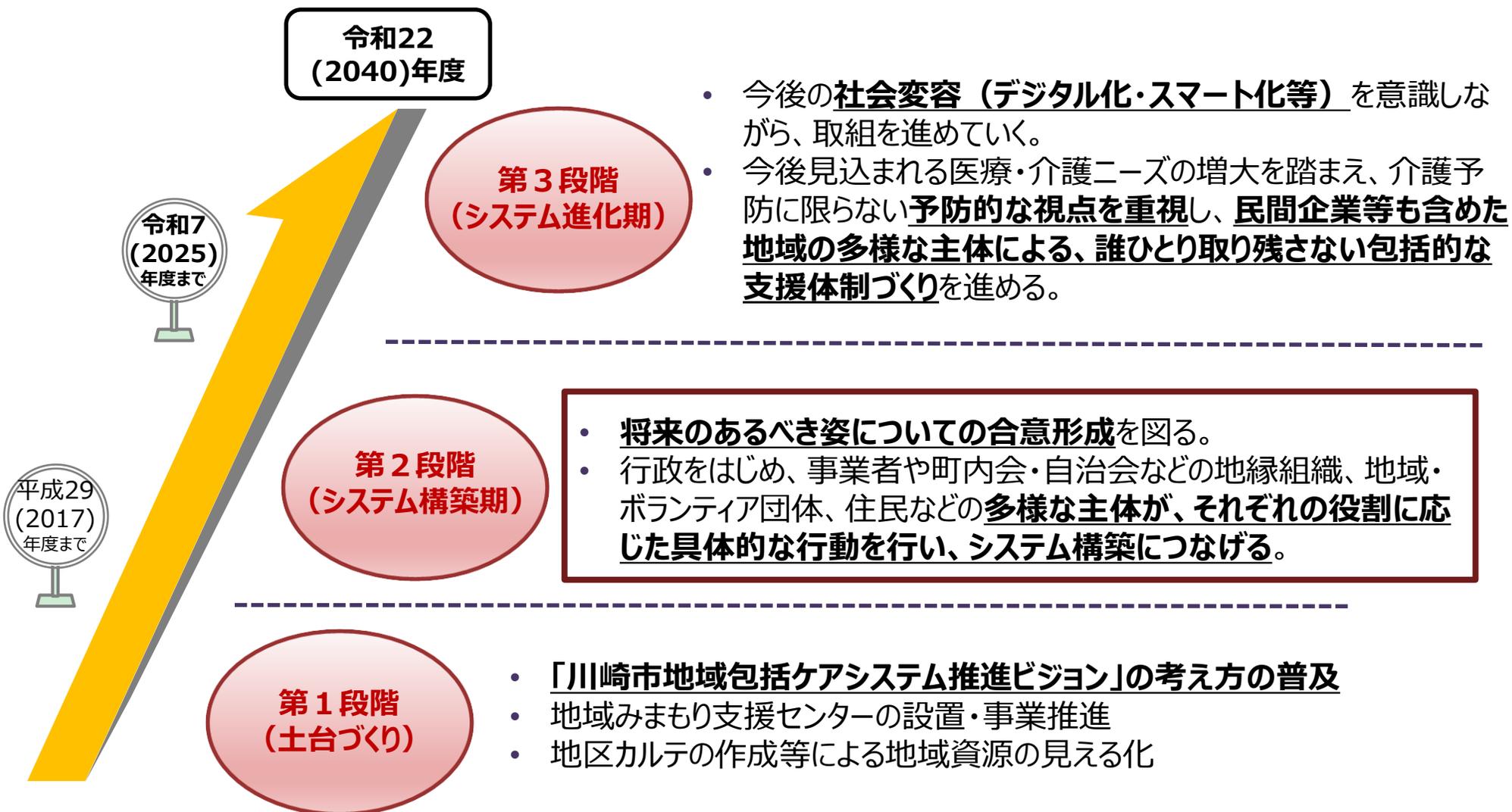
- 全国に先駆け、保健・医療・福祉分野だけでなく、まちづくりや教育、経済分野など、あらゆる分野が連携し、年齢や属性を問わず、「すべての地域住民」の生活を地域全体で支えるシステムの構築を目指すこととし、取組を推進

●今後より一層力を入れていく主な取組

- 地域包括ケアシステムに関する普及啓発の推進
- 在宅医療・介護連携の推進
- 企業等、多様な主体による生活支援の仕組みづくり など



取組推進に向けたロードマップ



本市における地域包括ケアシステムの取組推進体制

庁内推進本部会議

本部長（市長）、副本部長（副市長3名）、
本部員（各局区等局長級32名）



全市・各区における
施策の推進・調整

連絡協議会

（参画団体）
123団体
（R6.11.1）



（令和6年2月16日開催風景）

※座長に慶應義塾大学
田中滋名誉教授。
※同日に、運営委員会、
交流会を開催。

多様な主体の協働
による「顔の見える
関係づくり」の推進

区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）

- 平成28年4月、住民に身近な区役所内に設置。
- 全市を担当地区に分けて保健師を配置し、地域のニーズに応じた、きめ細かな対応をめざして取組を推進。
- 小さな地区単位での情報等をまとめた「地区カルテ」等を活用して、地域の住民と共に目的と課題を共有、ゆるやかな「つながりづくり」から「地域の支え合い」を育てていく。

「個別支援の強化」
と「地域力の向上」
を一体的に推進



（地区カルテ）

3. 「地ケア」構築に向けた具体的な取組

(1) 地域状況の把握



令和5年度版
川崎区 中央第一地区カルテ

旭町、砂子、駅前本町、榎町、境町、新川通、鈴木町、東田町、富士見1丁目、堀之内町、本町、港町、吉前町、吉本町

川崎市では、すべての市民を対象に、10年、20年先の将来も住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築を進めています。住民の皆様が地域のことを知り、今できることや、これからどのように暮らしていきたいかなどを考えるきっかけとして活用いただくため「地区カルテ」を作成しました。

こんなときに活用しよう！

- 住み始めたこのまゝのことが知りたいな
- 見守り活動を始められないかな
- 活動を始めると仲間と話し合うための資料が欲しいな
- どんな人たちが住んでいるの？地域の特性や課題は？
- この地域に高齢者がどのくらいいるのかな？

この資料は、町内会・自治会を基本とした一定の地区を範囲として、全市を44地区に分け、地区ごとに共通した統計情報などを整理して作成しました。

- ✓ 地域の統計情報
- ✓ 住民の意識
- ✓ 個別支援の情報

(2) 課題解決に向けた対応

意識づくり

地域づくり

仕組みづくり

地域の状況を把握しよう
人口などの基本的なデータは？

人口・世帯数	人口	世帯数	平均人口	世帯平均人口	性別人口	性別世帯数	性別人口	性別世帯数
中央第一地区	12,179	4,185	2.91	2.91	6,114	3,111	6,114	3,111
川崎区	279,771	102,747	2.72	2.72	140,114	71,111	140,114	71,111
川崎市	1,277,171	477,000	2.68	2.68	647,114	331,111	647,114	331,111

収入人口・世帯数の変化は？

国・都道府県・市の割合は？

国・都道府県・市の割合は？

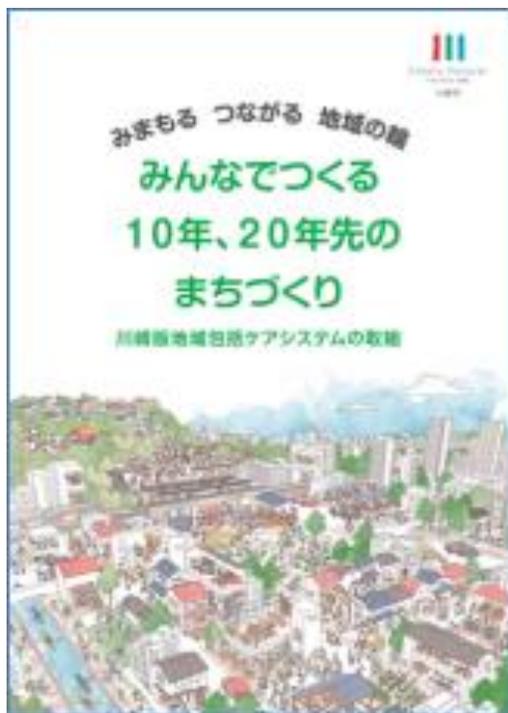
国・都道府県・市の割合は？

国・都道府県・市の割合は？

3-1. 課題解決に向けた対応 「意識づくり」

● 戦略的広報の推進

- ・困り事等の相談先を伝える等の **地ケアパンフレット** 作成
- ・「地ケア」を若者に伝えていくための **マンガ** の作成
- ・ **ポータルサイト**
- ・ 市政だより 等



(パンフレット)



(マンガ)



(ポータルサイト)

3-2. 課題解決に向けた対応 「地域づくり」

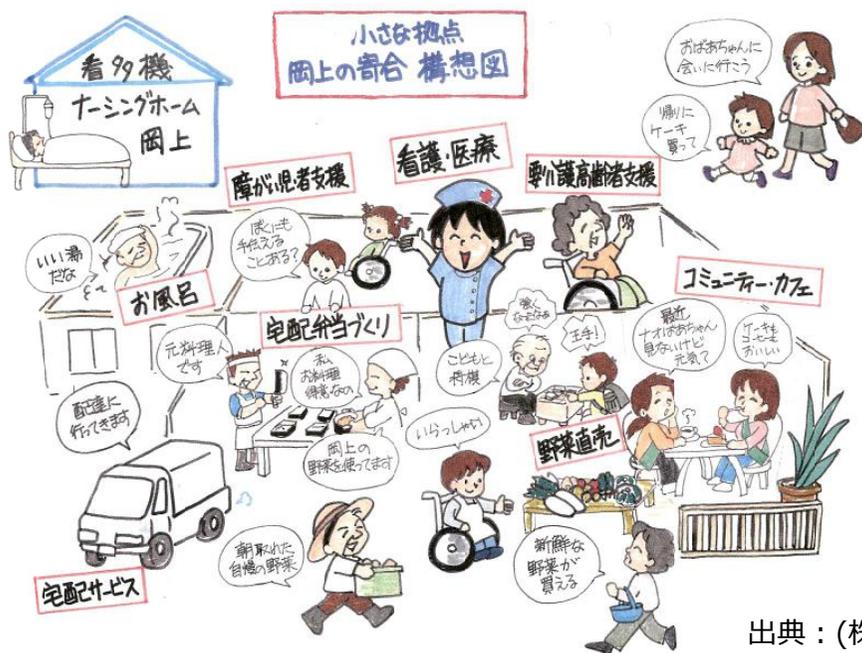
● 地域マネジメントの推進

- 「**地区カルテ**」等を活用して、地域課題の共有・解決に向けた住民ワークショップの開催
- 地域づくりのノウハウの整理・分析を進め、住民主導の**地域課題解決の新たな仕組みの構築**



(住民ワークショップ)

【取組例】地域のニーズを形に (介護事業所に生活支援コーディネーターを配置)



出典：(株)リンデン



本市の「コミュニティ施策」×「地ケア」

- 社会変化に対応した、多様な主体が連携した「**市民創発**」による持続可能な暮らしやすい地域を実現するため「**基本的考え方**」を整理し、コミュニティ施策を推進

《主な取組》

- (1) 地域レベルの居場所「**まちのひろば**」の創出
- (2) 区域レベルのプラットフォーム「**ソーシャルデザインセンター**」の創出
- (3) 区民参加により意見交換する場「**地域デザイン会議**」の取組を推進

- まちフェス×地ケアフェアの開催** (R6.12.8)



(まちフェス×地ケアフェア チラシ)



令和6年4月に全7区で稼働しました！



希望のシナリオ



地域デザイン会議

コミュニティ施策によって創発された住民の活動を通じて、**地域における顔の見える関係づくりが進んだり、見守り・支え合う地域づくりにもつながる**

3-3. 課題解決に向けた対応「仕組みづくり」

●在宅医療・介護連携の取組



在宅療養推進協議会

医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、介護支援専門員連絡会、医療ソーシャルワーカー協会、理学療法士会、地域包括支援センター、川崎市

川崎市在宅療養推進協議会

(2013年～)

- ・在宅医療の提供体制に求められる医療機能の検討・調整
- ・在宅医療に係る多職種連携
- ・多職種の人材育成
- ・その他、在宅医療推進のために必要な事項 など



WG開催風景

暮らしと医療WG

(2024年～)

暮らしと医療の情報連携について検討

在宅療養WG

(2024年～)

本人の意志決定を踏まえた療養の在り方と看取り期の連携モデルの検討

各区在宅療養推進協議会

(2014年～)

地域に密着した多職種連携体制の構築や市民啓発の取組の推進

退院した際の地域を病院に例えると…

- ✓ 自宅は病室、道路は廊下です。
- ✓ 病院のように、医師や看護師、歯科医師、薬剤師、ケアマネジャーなどの専門職が道路（廊下）を歩いて自宅（病室）に伺って治療や処置、相談を行います。
- ✓ 多職種・多機関の連携が整うと、地域でも必要な医療や介護を受けながら、自宅での生活を支えることができます。

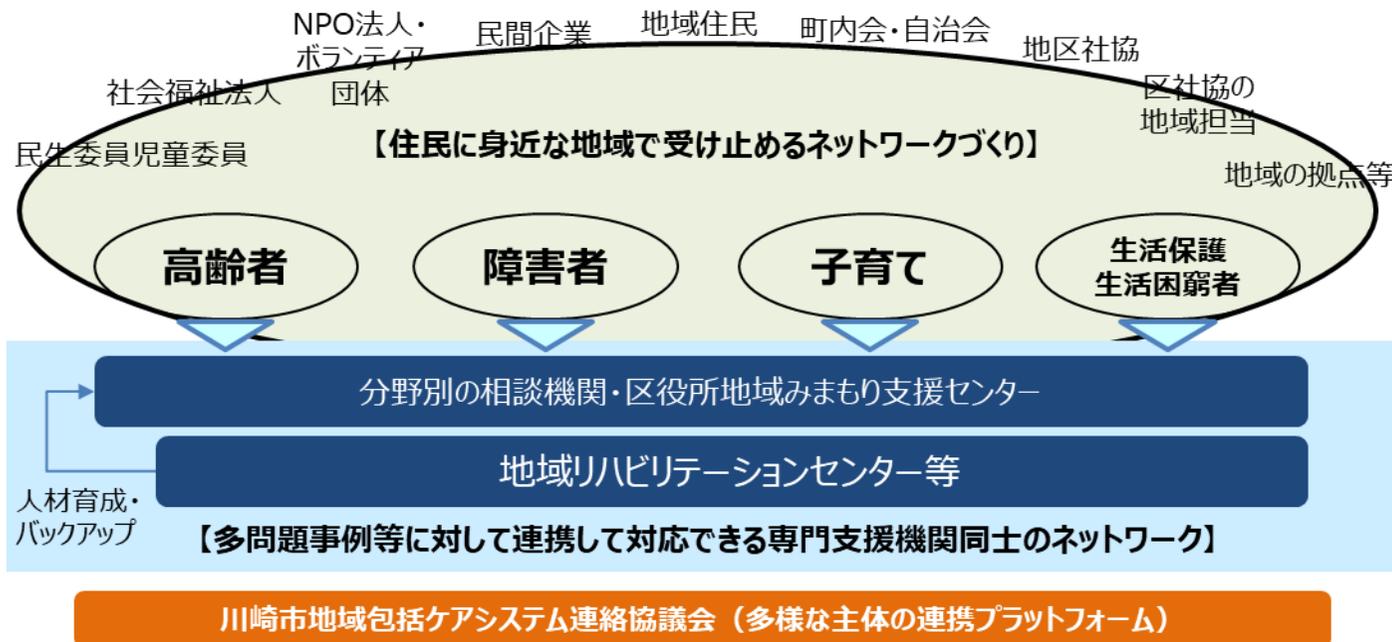


(在宅チーム医療を担う地域リーダー研修)

3-3. 課題解決に向けた対応「仕組みづくり」

● 包括的な支援体制づくりの取組

- 区役所地域みまもり支援センターにおいて、「個別支援の強化」と「地域力の向上」を一体的に推進
- 「地区カルテ」等を活用しながら、地域の住民と共に目的と課題を共有し、ゆるやかな「つながりづくり」から「地域の支え合い」を育てている



川崎市社会福祉協議会による
地域福祉懇談会



総合リハビリテーション推進センターによる
多機関連携に向けた研修

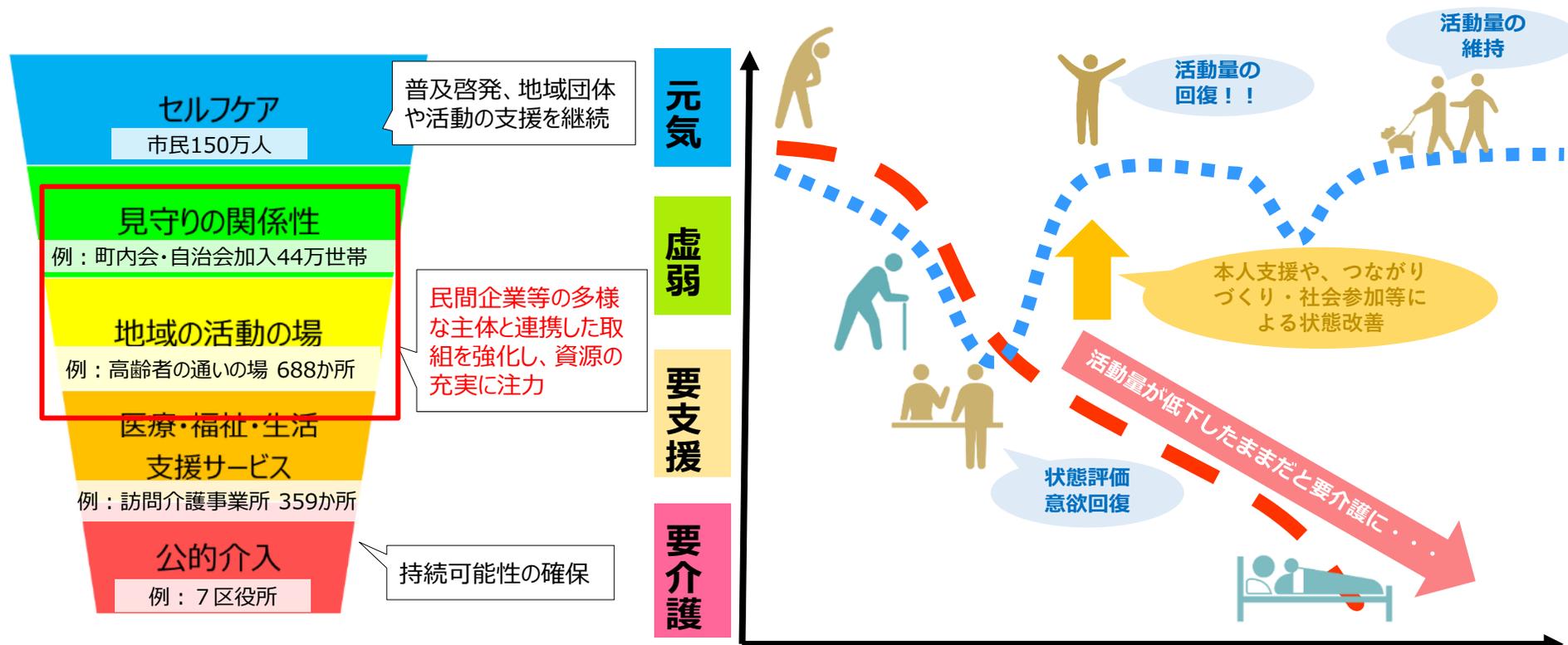
地域でゆるやかにつながり、困ったときに適切な支援につなげるため、企業等をはじめ、多様な主体によるネットワークづくりをさらに推進

4. 今後の取組の推進に向けた考え方

● 企業等をはじめ多様な主体による地域資源（取組など）の充実が重要

地域に必要な資源（取組など）

虚弱・要支援高齢者を対象とした場合のイメージ



安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて、企業と地域住民・団体とのネットワークづくりや、多様な地域資源(取組など)の創出等が重要

5. 川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会

●「地ケア」連絡協議会の開催

- 今後の超高齢社会に対応した、多様な主体の協働による地域包括ケアシステムの構築を目指して、「顔の見える関係づくり」を推進
- 参加者間の連携により地域での新しい活動等を創出

参画団体数（令和6年11月1日時点）

123団体

保健・医療・福祉関係団体、市民公益活動団体、青少年支援団体、大学・研究機関、
企業 など

電気・ガス・水道、鉄道、運輸サービス、通信、配達飲食サービス、金融、不動産 など



令和6年2月16日 第20回川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会の様子

●「地ケア」連絡協議会の取組

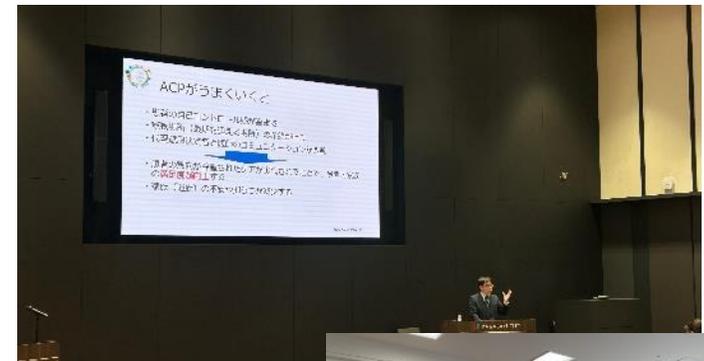
- 具体的なアウトプットの創出を目指した「ワーキンググループ」を開催
- 介護に直面した方の声などから、社員の介護離職防止に向けたリーフレットを作成
- 連絡協議会主催イベント「人生100年時代に備える地ケアフェア」を開催（R5～）。参画企業・団体が提供するサービスや専門相談窓口等がブース出展



介護離職等防止リーフレット



令和6年度「人生100年時代に備える地ケアフェア」チラシ



令和6年度「地ケアフェア」の様子